

米盛フィールドワークゼミナール 2024 観光まちづくり

日本は人口急減・超高齢社会にあり、地域経済・社会への影響は深刻さを増しています。そうした中、観光は地方創生のカギとされ、地域の観光資源の磨き上げや魅力の発信、共創による新たな価値創造により、域外からの観光客誘致・消費の拡大、関係人口の創出を目指しています。また、超高齢社会において、要介護者をはじめ、誰もが旅行を楽しめる社会の実現（ユニバーサルツーリズム）は、看過できない重要課題です。

本ゼミナールは「観光まちづくり」を大きなテーマとし、「ユニバーサルツーリズム」と「地域活性化」を中心課題として、地域や企業と連携しながら実践的課題に取り組んでいます。

ユニバーサルツーリズムプロジェクト



車いすユーザーモデルコースの作成と フィールドワークによる実証 2年生



■プロジェクト課題

大阪・関西万博を見据え、岡山県の旅行会社等と連携し、車いすユーザーと楽しむ岡山県発→大阪観光モデルコースの作成とフィールドワークによる実証をおこなう。

■連携企業

株式会社コネクシー、岡山交通株式会社、株式会社リョービツアーズ

■進め方

- 14名の学生が4チームに分かれ、グループワークでモデルコース案の作成・提案とFW
- ①車いすユーザーさんと一緒に楽しめる「岡山県発→大阪観光日帰りモデルコース」作成・移動手段、移動の導線（エレベーターの有無、通路の幅など）、鉄道や観光施設のバリアフリー対応、割引料金等の情報収集と予約
 - ②作成したモデルコースを車いすユーザーさんと一緒にまわるフィールドワークを実施・モデルコースを前半・後半に分け、各チームが案内と車いす介助をしながらまわる。車いすユーザーさんと会話しながらまわることで、バリアやバリアフリーについて、新たな気づきを得られた。
 - ③参加した車いすユーザーさんからのフィードバック
 - ・参加者からは「楽しかった」「バリアを感じなかった」と好評を得られた。
 - ・「どこに行くか」ではなく、「誰と行くか」が大事であり、特別扱いや気を遣いすぎない学生の接し方に心のバリアを感じなかったとの感想を頂いた。



障がいのある人との交流・ アプリケの協働作成と販売 3年生

3年生



■プロジェクト課題

障がい児・者と学生との交流を通じた相互理解やノーマライゼーションを考える

■連携企業

株式会社ノーサイド（障がい福祉サービス総合福祉施設）

■進め方

- 17名の学生が3グループに分かれて、課題設定、解決案の作成・提案、実行
- ①施設訪問、施設代表からの講義と施設見学、施設利用者との交流
 - ②施設訪問の振り返りと課題設定（自分たちに何ができるか？）
 - ③各チームで設定した課題の解決案の作成と施設スタッフへのプレゼンテーション
 - ④施設スタッフ・利用者さんと一緒に、大阪FCの試合観戦とポッチャ体験ブースの運営
 - ⑤各チームが設定した課題の解決案の実現に向けたプラン作成と実行
 - ・なにわ女子チーム
- 利用者との交流を通じた相互理解を目的に、イベントを企画実行。利用者さんと学生と一緒に作成したアプリケを通じて、障害福祉や施設について知ってもらいたい！
- イベント1：プランづくりとメモリアルツリーの作成・記念撮影で思い出を残す
イベント2：利用者さんがプランに書いた絵をもとに、アプリケ作成と包装作業
イベント3：利用者さんと作成したアプリケをマルシェで協働販売☆8個売れたよ！
- ・リアルマドリッドチーム
 - 障がいのある人も一緒に楽しめるスポーツとして、モルックの体験イベントを実施
 - ・こぼんザメチーム：プロジェクト活動の情報発信



地域活性化プロジェクト



滋賀県大津京のカフェを活用した 地域交流の場づくり 2年生

2年生



■プロジェクト課題

滋賀県大津京のSG-PARK（スポーツ×飲食複合施設）を活用して、「地域の人々の交流・共創の場」をつくる

■連携企業

株式会社ウエタ本社

■進め方

- 6名の学生が役割分担しながら、地域の人々の交流を促進するイベントの企画・運営
- ①SG-PARKで開催された「滋賀のまちづくり」に関して、地域の企業の方々と議論するワークショップに参加、運営補助
 - ②SG-PARKの場づくりについて、連携企業担当者とカフェの店長とディスカッション
 - ③地域の人々の交流を生むイベントの企画案「クリスマスマーケット」の提案
 - ④クリスマスマーケット開催に向けたプランの作成と実行
出店企業の誘致、イベントの宣伝活動（インフルエンサーへの協力依頼、ちらしの作成・配布・学内掲示）、イベントの雰囲気づくり（イルミネーション、仮装など）
 - ⑤12/15（日）にクリスマスマーケットの開催（出店ブース準備、運営、集客、販売など）
 - ⑥連携企業とプロジェクトの振り返り
結果：地域の人々の交流や賑わいの創出、カフェや出店企業の売上UP、イベント出店企業から好評を得た。



コーヒーイベント出店 から考える地域活性化 3年生

3年生



■プロジェクト課題

ジャパンコーヒーフェスティバルへのコーヒー店の出店を通じて、イベントを通じた地域活性化を考える

■連携企業

一般社団法人日本コーヒーフェスティバル実行委員会

■進め方

- 3名の学生が1つのコーヒー店をつくり、イベントに出店！
お店の名前は「L.time」☆彡
- ①連携企業の代表からのイベントやコーヒーに関する講義
 - ②コーヒー店のコンセプトづくり
 - ③コーヒーのドリップ、焙煎に関する実践学習
 - ④イベント出店前に大学でコーヒーの提供と宣伝（移動式店舗 HIRAKELを活用）
 - ⑤ジャパンコーヒーフェスティバル出店のお店紹介冊子（原稿）の作成
 - ⑥コーヒーフェスティバルに出店（高野山と吹田商店街のイベントに参加）
 - ⑦プロジェクトの振り返りと成果報告

